

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		うらら		公表日 令和8年3月5日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		室内活動も週替わりで制作活動があり、狭さを感じさせない。一斉に活動とならないようにグループ編成又はスケジュールをずらすことでゆとりを持って活動して。状況に応じて各部屋の利用方法を変えている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		常に5名以上配置している。工作など様々な新しい活動を提供し、一人一人に目が届きやすい環境を作ろうとしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		グループの見える化。写真つきの巡回表。各部屋の役割が明確に分かれている。活動場所と場所を対にして視覚的に分かるよう掲示されている。子どもによっては2Fで勉強をするなど配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		チェックリストに沿って、毎日清掃を徹底している。	ポルタリングを設置予定
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		1F、2Fと使い分けができる。聴覚過敏や周りが気になり、集中できないときは2Fで勉強をするスペースを設けている。活動と場所を対にして、分かりやすくしている。施設できる部屋もあり。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		職員会議時に実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		職員会議や支援に入る前の時間等に意見、疑問点など意見交換をしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	18%	82%	第三者評価調査員の資格を持つ職員が2名おり、評価を受ける準備をしている。	書類の整備など進める
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		外部研修の呼びかけを行い、参加する機会がある。法人内研修を実施している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、みらいへの手紙を作成しているか。	100%			
	13	みらいへの手紙を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		直接支援職員から情報収集している。職員に記入する紙が配布され、こどもの様子を記入している。	
	14	みらいへの手紙が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		目標を意識するために、会議等で話し合っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		現在はインフォーマルが主である。	
	16	みらいへの手紙には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		グループの子ども、することを毎日変えている。個人にあったもの、季節を感じられるものを取り入れる工夫をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせるみらいへの手紙を作成し、支援が行われているか。	100%		専門的支援計画を立て、支援をより個別に実施することもある。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		直接又はグループLINEにて気になる点、子ども達の言動等共有し、それについての改善点や改善の仕方など確認できるようになっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	23	定期的にモニタリングを行い、みらいへの手紙の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	100%			日常生活の充実と自立支援のための活動、多様な遊びや体験活動、地域交流活動、子どもが主体的に参画できる活動の4つの活動について職場内で研修を行ったが、自己評価にあたり再度確認したい。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		遊びのレパートリーをイラストで選べるように提示してある。	
関係機関や保護者との連携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		こどもが通院しているリハビリに定期的に見学に行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		下校時は、担任より学校での様子を聞き、何かあるときは情報を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	64%	36%	相談員、保護者より情報を得ているが、直接事業所等とのやり取りはない。必要時には行う。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	55%	45%	必要に応じて行う。	西部療育センターなどと情報交換に努める。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	91%	9%	公民館のイベント参加。豊年まつりなどへの参加。地域カフェに参加した際、地域の子もたちと共になる機会がある。	個人情報の保護などとの兼ね合いが難しい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	82%	18%	参加できるようできる限り調整する。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		連絡帳をベースに電話など適宜情報共有に努める。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		西南大の倉光先生よりご家族向けの研修を開催する。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		新規利用の際や面談の際に伝えている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		モニタリングの時に確認している。	こどもの意向を確認する機会をもちたいと検討中。
	38	「みらいへの手紙」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		モニタリングでニーズ、子どもの姿を確認している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	64%	36%	昨年度は実施。今年度、研修を実施している。保護者が顔を合わせる機会になればと考えている。	今後、様々な交流の場を検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%			

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		Instagramや四季だよりを発行し発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%			
	44	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		ことばだけでなく絵や文字で伝えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	64%	36%	地域住民への招待はしていないが、子どもの作品を公共の場（さいとびあ）にて3月展示する予定である。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		安全計画に沿って訓練や研修を年2回実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%			
	48	事前に服薬やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		かかりつけ医の確認をしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		年度始めに安全計画を作成し、会議で共有している。 プールでおぼれたときのために浮く練習をした。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		会議、書面で今後の対応を共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%			